

The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Spring 2010

Office of Professor Eiichi Hara
Department of Literature and Culture in English
Tokyo Woman's Christian University
2-6-1 Zenpukuji, Suginami-ku, Tokyo 167-8585
E-mail : hara****
<http://www.soc.nii.ac.jp/dickens/>



2010年6月20日



2010年春季大会報告 Spring Conference 2010 at Osaka City University

2010年度の春季大会は6月12日（土）、大阪市立大学（杉本キャンパス）にて開催されました。参加者は50数名。研究発表1件の他、今回からの新しい企画として「博士論文研究報告会」が行われました。さらに、富山太佳夫氏による特別講演がありました。いずれも大変充実した、刺激的な内容であったため、フロアとのやりとりも非常に活発でした。大会をオーガナイズしていただいた田中孝信氏に深く感謝申し上げます。

第一部 研究発表

司会 要田圭治（広島大学教授）

角田裕子（日本大学大学院）

「『ニコラス・ニクルビー』におけるケイトの役割」

角田氏の発表は、『ニコラス・ニクルビー』の主人公の妹ケイトに焦点をあてて、その役割を問い直したものでした。特に注目すべきは、ケイトが一見して典型的な初期ディケンズのヒロインのように見えながら、時として明確な自己主張をしていることです。ラルフによって放蕩貴族たちの餌食にされそうになったとき、彼女は強い憤りと抗議を表明します。後期のエイミー・ドリット、ビディー、リジー・ヘクサムといった女性たちにつながる要素をケイトが備えていたことを示唆したもので、大変有意義な発表でした。



第二部

博士論文研究報告会

司会・講師 中村 隆（山形大学教授）

講師 宮川 和子（神戸大学非常勤講師）

講師 川崎 明子（駒澤大学准教授）

すでに10年ほど前から、日本の中堅・若手の研究者は、博士学位を取得することが、研究者としての出発点となっています。海外でPhDを取得する例も珍しくなくなりました。日本支部会員の中にもいわゆる課程博士号取得者は着実に増加しており、学位をめざして研究に励んでいる方も多いことでしょう。今回の企画は、学位取得者たちにより、その経験と博士論文の内容を話していただき、とくに若手の方々の参考にしていただこうという意図で行われました。

それぞれの学位論文の中で、宮川氏は、ディケンズ、コリンズ、ブラッドン、ブロンテの中で、女性が「書く」ということがどのように扱われているかを中心に論じ、中村氏は、『荒涼館』など後期の小説が内包する社会文化史的問題の解明を試み、川崎氏は、ブロンテにおける「病」と「看護」の問題を実証的に検討したことが報告されました。

さすがに学位論文だけあって、短時間に要約されても、いずれ劣らぬ充実した研究であることがよく分かりました。非常にレベルの高い研究発表が三本連続するということになり、濃密な時間があっという間に過ぎ去った感じでした。

第三部 特別講演

司会 原 英一 (東京女子大学教授)

富山 太佳夫 (青山学院大学教授) 「群衆、暴動、ディケンズ」



昨年、久々にフェロウシップに復帰された富山太佳夫氏の講演は、『バーナビー・ラッジ』の冒頭の「1775年に.....」から出発しました。その後は、富山氏らしい壮大な知的冒険の旅が続きました。『ロビンソン・クルーソー』、『虚栄の市』、『北と南』、さらには『宝島』までのテキストを縦横に駆使しながら、富山氏が浮かび上がらせるのは、「黒人」表象が当時いかに遍在していたかであり、その中に浮かび上がるディケンズにおける「黒人の不在」です。歴史と文学のダイナミックな相関を提示した講演は、文学テキストの新たな可能性を示しました。聴衆は富山氏の巧みな話術に惹きつけられつつ、さまざまな形で啓発されました。フロアとの挑戦的なやりとりも、期待通り、強烈で刺激的でした。



懇親会

懇親会は、杉本キャンパス内で最も目をひく高層ビル「学術情報総合センター」1階にあるレストラン「ウイステリア」で行われました。40名ほどが参加。美食を楽しみつつ、歓談しました。

その後、電車で天王寺に移動して、超高層ビルにある居酒屋で二次会。こちらには19名が参加。通天閣などの夜景がすばらしいところでしたが、景色を眺めるどころではなく、熱気が天井知らずに高まるなか、大阪の夜は更けていきました。



乾杯は松村昌家先生

諸 報 告

(1) 『年報』第33号の編集について。

※論文投稿は6月10日で締め切りました。3篇の投稿があり、現在理事により審査中です。

※自由投稿記事・ニュースの締切りは8月31日とします(支部長宛に「可能なかぎり電子メールで」お送りください)。

(2) 日本におけるディケンズ研究書誌作成について ご協力をお願い

毎年お願いしておりますが、日本におけるディケンズ研究書誌を作成するため、会員(および会員以外の方)の2009年度の著書・論文等の報告にもご協力ください。ウェブ担当補佐の松岡さんと年報担当補佐の宮丸さんまで電子メールでお届けいただければ幸いです。松岡： / 宮丸：

ディケンズ生誕200年記念 日本支部論文集(英文)原稿募集

Dickens Bicentennial Essays to be published by the Japan Branch

ディケンズ生誕200年を記念し、日本支部が総力をあげて刊行をめざす英文による論文集の原稿を募集します。**100年に一度の機会です。**日本支部の実力を世界に示しましょう。会員の皆様はふるってご投稿ください。詳細は別紙の募集要項の通りです。

2010年度秋季総会予告およびプログラム企画と研究発表の募集

2010年度秋季総会は、10月23日(土)に東京女子大学(東京都杉並区)で開催されます。

総会を元気あるものとするため、会員の皆様からのプログラム企画の提案を募ります。寄せられた提案は今回実施できない場合でも、来年以降に実現できるよう最大限努力します。

【研究発表募集要項】

秋季総会で研究発表を希望される方は、**2010年8月20日までに**、支部長宛電子メールでお申し込みください。その際、審査用として1,200字程度、プログラム掲載用として400字程度の要約を添付してください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 英語文学文化専攻 原英一研究室内
電子メール: haral2cdfj 電話(FAX無し): 03-5382-6348 (原支部長直通)